認定NPO法人

JHP・学校をつくる会

JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

2021
年度事業報告書

2022
年度事業計画書

2021年度 事業報告書
2022年度 事業計画書

CONTENTS

■ ごあいさつ 3

■ JHP の活動・歩み・理念 4-5

■ 学校建設（カンボジア） 6-7

■ 学校建設（ネパール） 8

■ 衛生教育（カンボジア） 9

■ 初等科芸術教育支援事業 10-11

■ 音楽・美術教育支援事業 12

■ CCH・アート・プロジェクト 13

■ 教育支援（幸せの子どもの家） 14

■ 成人識字教育事業 15

■ 災害救援 復興支援 16

アフリカへ毛布をおくる運動

■ 啓蒙活動 17

■ 組織運営 18-19

■ 2021 年度活動計算書 20

■ 2021 年度貸借対照表・監査報告書 21

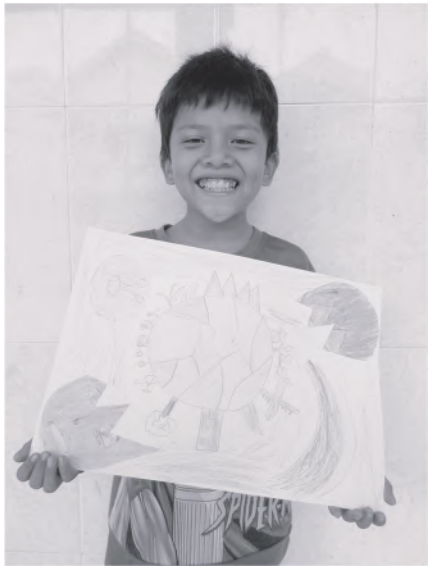
■ 2021 年度財務諸表の注記 22

■ 今年度実施できなかった事業 23

■ 2022 年度事業計画 24-30

■ 2022 年度活動予算書 31

■ （裏表紙）JHP 行動基準 32



ごあいさつ

日ごろ全国各地から寄せられる皆さまの温かいご支援に心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

2021 年度は新型コロナウイルスで何かと不自由な日々が続いたかと思います。その中で、1 年ぶりの天満敦子チャリティーコンサート開催や、グローバルフェスタのオンラインブース参加、お米一合運動といった様々な活動をしてまいりました。当会も新型コロナウイルスの影響を受け、一部、例年通り（事業計画通り）の活動ができませんでしたが、臨機応変に対応し、活動してまいりました。コロナ禍でも活動ができますのは、皆様のおかげであり感謝の気持ちでいっぱいです。

私どもは、1993 年 9 月の設立以来、「できることからはじめよう」をモットーに、皆様のご支援によりカンボジアに 364 棟、ネパールでも 17 棟の校舎を建設寄贈して教育支援活動に取り組んで参りました。また、カンボジアの音楽や美術教育の発展に基本創りから取り組み、教科書や指導書づくりに大きく貢献をしています。第 3 期の識字クラスはコロナ対策のルールに従い実施いたしました。

2022 年度は、また気持ちを新たに様々な支援活動に取り組んでまいります。私たちになにができるか、よく話し合い、より良い活動を続けていきたいと思います。

一日も早くコロナが収束し、穏やかに生活ができることを願っております。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

小山内美江子

JHPの活動・歩み

1990	イラクに入国できず、ヨルダンにて活動。	
1991	JHPの前身であるJIRACとして湾岸戦争後に取り残されたクルド難民の救援を学生達とイランで実施した。	
	小山内美江子と二谷英明らがカンボジア難民救援のため、タイ国境キャンプを視察し準備に入る。	
1992	タイ国境からのカンボジア帰還難民救援活動の中から、子どもたちのための学校建設の必要性を把握。	
1993	９月15日にJIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立。	
	カンボジア活動隊派遣開始（以降年2～3回を継続）。	（写真A）
1994	JEN設立に代表小山内が参画。駐在員1名をユーゴスラビアへ派遣。	
1995	阪神淡路大震災発生。当日から救援活動開始。	（写真B）
	カンボジアにプノンペン事務所設置。旧ユーゴスラビア隊を定期的に派遣。	
1996	音楽教育プロジェクト開始。カンボジアに音楽教師1名を派遣。	
	アフリカに毛布を送る運動の構成団体として学生の現地派遣開始。	
1997	4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。	
	地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)の構成団体となる。	
1998	カンボジア教育省とNGO活動の合意書を結ぶ。	（写真C）
1999	美術教育プロジェクト開始。日本人教師1名派遣。初の絵画展を開催。	
2000	10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記完了。	
	プノンペン市認定の音楽教師7名を誕生させる。	
2001	JENの構成団体としてインド地震救援隊4名派遣、テントなどを支援。	
	カンボジア王国と覚書を交わし正式なNGOに認められる。	
2002	ユニセフと合同でアフガニスタン支援実施。駐在員1名派遣。	
	JHP初の孤児院完成。CCH（幸せの子どもの家）支援開始。	（写真D）
2003	JHP初のラオス校舎完成、ボスニア活動隊4名派遣、100棟目の校舎完成。	
2004	１月１日に日本で19番目に国税局より認定NPO法人の認知を受けた。	
	新潟水害、中越地震の支援活動実施。	
2005	カンボジアにて第1回音楽コンテスト実施（以降年1回実施）。	
2006	JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金スタート。	
	小山内美江子　国際ボランティア・カレッジ開催。	
	代表小山内がカンボジア王国よりモニサラボン大十字勲章受章。	
2007	設立15周年記念祝賀会を開催。マーチングバンド、CCHの子どもが来日出演。	
2008	1人1万円の呼びかけで631人が賛同し、200棟記念校舎が完成。	
	代表小山内が第20回毎日国際交流賞を受賞。	
2009	国際ボランティア・カレッジが第3回浄土宗共生（ともいき）・地域文化大賞を受賞。	
	新たな支援対象国の候補としてネパール調査を実施。	
2010	アカウンタビリティ・セルフ・チェック2008を実施。	
2011	東日本大震災発生（3月11日）。仙台市若林区、南三陸町にて支援活動を行う。	
	平成23年度外務大臣表彰を団体として受賞。	（写真E）
	JHP初となるネパールでの学校建設を開始する。	
2012	JHP創設者の一人で元副代表の二谷英明氏が1月7日に逝去する。	
	公益財団法人かめのり財団より、「第5回かめのり賞」の表彰を受ける。	
2013	JHP行動基準が制定される。（詳細は裏表紙を参照）	
	JHP初となるネパールでの校舎が2棟完成し、贈呈式を行う。	
	300棟記念校舎が完成。	（写真F）
2014	2月24日に東京都より認定NPO法人の認定を受けた。	
	設立20周年を祝う、記念の集いを開催。	
	教育支援事業の充実を目指した「ドレミとアート基金」設立。目標300万円を達成。	
2015	外務省日本NGO連携無償資金協力の助成事業に採択される。	
2016	熊本地震発生。益城町への継続支援を実施。（4月～）	
	JICA草の根技術協力事業「カンボジア王国　初等科芸術教育支援事業」が開始される。（8月）	
2017	ASACカンボジアに学校を贈る会より識字教育事業を継承。2018年9月から教室開講。	
2018	JHP25周年記念祝賀会開催。	（写真G）
2020	公益財団法人社会貢献支援財団より、第54回社会貢献者の表彰を受ける。	

JHPの理念

JHPは、戦争や自然災害で教育の機会を奪われた世界の子ども達に、人種、国籍、宗教、その他の信条の違いにかかわらず広く教育等の援助を行ない、また紛争や自然災害による被災地・被災者への救援活動と、これらの活動を通じて次代を担う若者達への地球市民教育を実践することを目的とする認定NPO団体です。

（写真Ａ）カンボジア活動隊派遣開始

（写真Ｂ）阪神淡路大震災救援活動開始

（写真Ｃ）カンボジア教育省と合意書締結

（写真Ｄ）CCH 支援開始

（写真Ｅ）東日本大震災支援活動開始

（写真Ｆ）300 棟記念校舎完成

■設立経緯

代表の小山内美江子は、1990年の8月、イラクによるクウェートへの武力行使によって勃発した湾岸戦争に際し、ヨルダン難民キャンプに出向き、はじめての海外ボランティアを経験しました。湾岸戦争時、「顔の見えない日本人」と批難されたことが行動の原点であり、共に活動した大学生の日々の成長に小山内が感動したことが、後のカンボジアでの活動に繋がっています。

JHPの前身団体JIRAC（日本国際救援行動委員会）でカンボジア担当だった小山内美江子と故二谷英明（俳優、JHP元副代表）が、パリ和平協定調印後の1991年12月にタイ国境の難民キャンプを視察し、更に92年活動の調査のため、カンボジア入りしたあと、1992年7月から学生らと共にタイからの帰還難民の救援に汗を流しました。その時の活動を通じて、学校建設の必要性を痛感し、1993年9月15日に同JIRACの中から「カンボジアのこどもに学校をつくる会」を設立しました。

1997年4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。2000年10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記を完了。2004年1月1日に国税庁より認定NPO法人の認定を受けました。

（写真Ｇ）JHP25 周年記念祝賀会

学校建設（カンボジア）

■建設支援リスト

建設累計	支援学校名	地域	受益者		主な支援内容								
			生徒数	教員数	校舎		トイレ		机/イス	井戸 水タンク	手洗場	遊具	靴箱
					棟	室	棟	室					
362	クナーチチュン小学校	トゥボークモム州	300	9	1	4			87				12
363	トラッピャンプロリッ小学校	トゥボークモム州	84	4	1	4	1	3	89				12
付帯設備	プンプリャオン小学校	トゥボークモム州	325	10					25				
付帯設備	プノムローク小学校	トゥボークモム州	139	4					20				
付帯設備	プラサトスラケオ小学校	タケオ州	552	13							1		
校舎補修					(1)	(5)							
付帯設備	アンルントン小学校	コンポンスプー州	638	13							1		
付帯設備	イヤーバアウ小学校	タケオ州	168	9							2	1	
付帯設備	スタンチュール中学校	カンダール州	345	37							1		
校舎補修	バンティエダェ中学校	カンダール州	707	31	(1)	(5)							
付帯設備	トゥールクリャン小学校	トゥボークモム州	387	11								1	
2021年度実績			3,645	141	2	8	1	3	221	0	5	2	24
364	タナック中学校	バッタンバン州	301	9	1	4	1	3					

＊実績の（）内の数字は、既存施設の補修棟数と室数を示します。2021年度の実績には加算しません。

＊364校目は2021年度内に未完成のため、実績は2022年度に加算します。

クナーチチュン小学校　旧校舎

クナーチチュン小学校　新校舎

トラッピャンプロリッ小学校

アンルントン小学校　手洗い場

■支援概況

各地の学校や州や郡の教育局から寄せられた要望書に基づき、主に

①教室数の不足度　　②校舎の老朽化や倒壊の危険性

③生徒数の増加程度　　④校舎以外の設備の必要度

をスタッフが直接確認し、優先度の高い学校から建設を行いました。

今年度はカンボジア 1 州に小学校 2 棟 8 室、校舎補修 2 棟 10 室、トイレ 1 棟 3 室、手洗い場 5 ヶ所を建設し、総受益者は生徒 3,645 名、教員 141 名の成果を得ました。

これにより、カンボジア国内での校舎建設数はカンボジア 20 州で 364 棟（着工済校舎を含む）、ラオス 1 棟とネパール 17 棟を加えた総実績は 382 棟となりました。また、年間を通して学校調査を行い、今後の事業継続のための情報収集と支援者への提案を行いました。

■カンボジアにおける校舎建設の実績

2020～2021 年度の教育省統計は公立の小学校は 7,304 校、中学校 1,246 校、高校は 554 校で合計は 9,104 校となり、前年度より 31 校増えています。

その中で、JHP は支援校 292 校（約 3.2%）の支援に携わっています。

■カンボジアと日本を繋ぐ各種コーディネート

安全を充分に確保し、校舎贈呈（2 回）、付帯施設贈呈（5 回）を実施しました。カンボジアでのボランティア活動は中止いたしました。

■カンボジアと日本間の交流

コロナウイルス感染拡大を受け、昨年度同様に贈呈式は延期されましたが、図書館や衛生施設、遊具、衛生用品などの形で、カンボジアに支援者様の想いが届きました。

写真①：図書館で読書

写真②：
マスクや石鹸等の衛生用品

写真③：
蛇口からの水で手を洗います

写真④：
休み時間にシーソーで。少し密です・・

プロジェクトの背景

国際機関やNGO等の援助により、カンボジアの状況は改善されつつあるが、都市と遠隔地の経済格差やインフラ（教育環境を含む）の格差は拡大している。小学校の就学率は上昇しているが、不完全校（6年生まで受け入れができない小学校）や教室不足の学校、老朽化が進み危険な校舎を利用している学校は未だに多い。中学生は増加しているものの、就学率は約6割に留まっている。中学校では、教室や教員不足を招いている学校も多く、生徒が過密な環境で学んでいたり、正規の時間数が学べなかったりなどの弊害も出ている。また、公立幼稚園の数と児童数の増加、都市部での私立学校の増加などの傾向が出ている。

■学校へ通い続けるための文具、衛生用品、食料支援

（左）支援品を受け取る生徒
（右）支援された文具、食料、衛生用品
（右下）(*)貧困ID
年収200ドル以下、バイク無し、家が無い、または、家がバナナの葉等適さない材料で作られている家庭に月20ドルが支給されます。（プノンペン在住は30ドル）

カンボジア国内の2021年度の途中退学率は7.3%と2020年度6.8%に対し増加しました。

コロナウイルス感染防止対策のため約8カ月間の長期に渡る休校や、家庭内の収入が激減したことにより、途中退学した生徒が例年以上に増加したことが原因だと考えられます。1日でも長く学校に通い続けられるように、貧困ID(*)を政府から支給されている生徒(3校、353名）に対して文具、衛生用品、食料等の支援を実施しました。　(*)貧困IDは、左記をご覧ください。

■「江東区」及び「江東区海外リサイクル支援協会」との連携で中古机・椅子を輸送

（左）チャンプーバーン小学校　支援された机、椅子で勉強する生徒達
（右）日本の子ども達からのパネルを受け取る教員

248セットのうち180セットをプノンペン市のチャンプーバーン小学校に、残り68セットをトゥボークモム州にあるプンプリャオン小学校に寄贈しました。

また、2022年度の寄贈に向け、関係者のみで椅子と机200セットを修繕し、楽器と寄贈ユニフォームの積み込みを行いました。

■インタビュー

カンボジアの学校は感染防止のため、2021年3月から10月まで全国一斉閉校しました。
その間の学校の状況、奮闘された事に関してインタビューを実施しました。

学校名：バラン小学校
名　前：プロン・ソピック校長先生
教員経験：2年　校長経験：7年

『バラン小学校が出来てから、何か変化したことはありましたか？』

悪天候の時は、以前は授業が出来ませんでしたが、今は天候を気にせず安心して勉強することができるようになりました。

また、中には危険な校舎に通わせるより、家の手伝いをした方がいいと考える両親もいたのですが、今は積極的に子ども達を学校に送る家庭が増えました。コミュニティの協力も得やすくなり、乾季で水が不足している時に水を寄付していただき、また野菜の栽培学習をする時には、種や苗を寄付していただきました。郡政府も学校ができたことで、学校周囲の舗装されていない道の整備を検討しています。日本の皆様、遠く離れた当校に温かい支援をいただきまして、心より感謝申し上げます。

学校名：イヤーパアウ小学校
名前：ジェイロット・ニー
学年：小学4年生(14歳)

『閉校している間、どのように過ごしていましたか？』

閉校していた時は、両親の携帯電話を借りてオンラインで学習したり、近所の友達とグループ学習をしたりしていました。でもあまり集中して勉強できませんでした。

今は学校が通常通り再開されて嬉しいです。友達とも休み時間にサッカーをして遊んでいます。コロナワクチンは3回接種しました。

このまま普通に学校生活をおくりたいです。

学校建設（ネパール）

■ネパール校舎累計で 17 棟 74 教室完成　新たに２校舎建設へ

2011 年に始まったネパールに於ける学校校舎建設支援活動は2021 年度末までに 17 棟、74 教室が完成しました。支援者の皆様のご協力に心から感謝いたします。2020 年に完成した、サガルマータ学校とラックスミナラヤン学校の贈呈式は開催できないままですが、2021 年初より学校が隔日登校や短縮授業を開始したことにより、両ドナー様同意のもと、教室が使われ始めました。

ネパールにおいても新型コロナウイルスの影響を受け、活動地区のジャパでも 2021 年５月後半に入って外出禁止令が出されました。その結果、A 様寄贈のバルスボディーニ学校２階建て４教室の工事は一時的に中断していましたが、外出禁止令の解除を経て、内装工事を進めて、2021 年の秋に建設を完了することができました。2021 年 3 月より建設が始まった G 様寄贈のアムリット学校は建設予定地の整備が終わり、雨期までに基礎工事を終えて2021 年 11 月の完成予定でしたが、工事の中断を経て、2021 年秋に建設を再開しました。2022 年 3 月には完成させ、引き続き新たに１棟建設を開始する計画になっています。

新型コロナウイルスにより、ネパールでの学校建設計画は一時的に中断し完成時期が遅れましたが、今後は建設計画が計画通りに進むよう最善の努力をいたします。

ネパールのコミュニティや学校管理者、学生、教師は、日本の贈呈者の皆様の寛大さと支援を高く評価し、この学校建設という素晴らしい仕事にご尽力いただいた方々に心から敬意と感謝の念を抱いています。

すし詰めの教室で勉強に励んでいる、ネパールの子どもたちの教育環境を少しでも改善するため、引き続き皆様のご支援を切にお願い申し上げます。

バルスボディーニ学校の校舎

バルスボディーニ学校の教室内部

バルスボディーニ学校の授業風景

バルスボディーニ学校の手洗い場

バルスボディーニ学校の廊下

建設中のアムリット学校

アムリット学校の建設現場内部

プロジェクトの背景

JHP の学校建設プロジェクトは、2011 年にネパール東南部に位置するジャパ県で開始されました。ジャパでは、学校はきちんと機能しているものの、校舎数が非常に不足し、子どもたちは教室の水準に達しない狭い部屋に押し込まれ、でこぼこな床、雨が降ると水漏れするトタン屋根、設備の不十分な教室で勉強していました。こうした状況を調査により把握後、JHP はネパールでの学校建設プログラムを開始させることを決定しました。支援の目的は、学校校舎を建設すること、特に僻地の村に学校を建設することでした。この支援により生活に困窮した貧しい農家の子どもたちがこれまでより良好な環境で教育を受けられるようになりました。

衛生教育（カンボジア）

■衛生環境を整え、安心、安全な学校生活を

2021 年度は 5 カ所に手洗い場を設置し、マスク、消毒用アルコール等の衛生用品を 7 校に支援しました。消毒用アルコールや石鹸は、各学校が自前で用意しますが、限られた予算から捻出しなければなりません。

また、衛生に対する先生方の意識が異なるために、衛生環境は学校によってばらつきが有ります。

チョムロー小学校は、以前は使用できるトイレと学校内に水が無く、衛生環境が劣悪でした。その為に両親が遠く離れた他校に子どもを送ることもあり、生徒の数は減少していました。2018 年 2 月に給水タンク、井戸、壊れたトイレの修繕を実施しました。その結果、生徒の数は増え、途中退学する生徒も約 2 割減少しました。

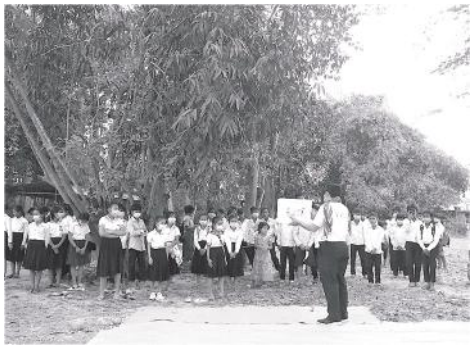
チョムロー小学校の校長先生からの話です。

「乾季でも乾くことのない井戸のおかげで、学校内に常に水がある状態を維持できるようになりました。また、トイレがあるので屋外排出する生徒の数も減り、学校の衛生環境がとても良くなりました。両親も当校に子どもたちを送るようになり、遠方まで通っていた生徒たちも戻ってきました。」

チョムロー小学校 ポンプ式井戸

チョムロー小学校 修繕されたトイレ

支援されたマスク、
消毒用アルコール等の衛生用品



衛生指導をしている JHP スタッフ

支援された手洗い場で手洗いする
生徒たち

支援されたマスクを着用し、
授業を受ける生徒たち

チョムロー小学校の生徒の声

名前：ピア・ラック・スメイ
学年：５年生（14 歳）

以前はトイレに行きたくなったら家に帰っていました。お母さんも、学校にトイレが無いことをとても心配していました。学校に井戸や給水タンクができてから、花や木もたくさん植えられていて、とてもきれいな学校になりました。

初等科芸術教育支援事業

2021年度 JICA草の根パートナー型「カンボジア王国 初等科芸術教育支援事業」

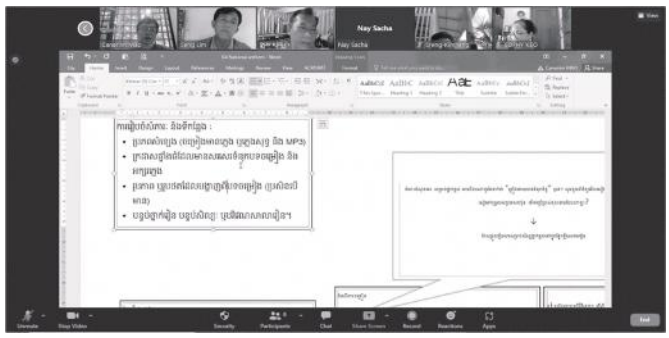
世界的なコロナ禍が続く中、カンボジアでのコロナ感染拡大を防ぐための全校休校や自粛要請などの措置は2021年度も継続されました。当事業で予定されていた活動の多くも延期を余儀なくされ、これに伴い、事業期間を半年間延長することで、年度内の完了を目指して活動を進めることとなりました。年間を通して感染拡大状況が常に変化していたため、見通しを立てることが非常に難しい一年でしたが、オンラインを活用するなど活動方法を工夫したり、スケジュール変更の調整をしながら、無事に2022年2月に事業を完了することができました。5年半を通して、日本とカンボジア両国の多くの方々に当事業に関わっていただき、支えていただいたことを、心より感謝しております。カンボジアのすべての学校で児童が質の高い授業を受けられるようになるまでには、まだまだ多くの課題と長い道のりが待っていますが、当事業の成果を活用しながら、2022年度以降、次の段階へと活動を進めていくこととなります。

■初等科芸術教科の生徒用教科書および教師用指導書が完成

カンボジア教育省の職員で構成されている、ワーキンググループとともに作成を進めていた、初等科芸術教科の教科書と指導書づくり。コロナ禍の影響で、なかなか進めることができなくなってしまった授業実践やワーキンググループとの会議を、オンラインや授業ビデオでの実施に変えるなどして活動を続けました。その結果、事業完了までに第1版の芸術教科1〜6年生の教科書、指導書の第1版を完成することができました。一方、対象地域での実践が必須である小学校でのトライアル授業（パイロット事業）については、コロナの状況が落ち着くであろう2022年度以降に延期することが決まりました。

対面での授業実践の代替策として授業ビデオを作成

オンラインでの子どもたちとの授業実践風景



オンラインによる教科書、指導書の校正会議風景

プロジェクトの背景

カンボジアの音楽・美術教育は、教育課程の中で独立した科目でなく、「社会科」の一部として位置づけられており、指導に充分な時間数がありません。また、学校の経済状況や教員の技術・知識が十分でないことから授業が実施されていないケースもあります。授業を行っている数少ない学校においても、音楽の指導内容は歌詞の書き写しや伝統楽器の名称を覚えることなどに限られています。美術においても、指導内容のほとんどは臨画（模写）です。子どもたちが音楽や美術を通した自己表現活動により、協調する力や表現力、豊かな感性と心の情操を育む機会は極めて少ないといわざるを得ません。

■事業完了報告会を開催

事業完了時には、教育省との最終報告会を行い、完成した第一版の芸術教科の教科書・指導書の印刷サンプルとデータを、教育省へ提出しました。今後、これらの教科書と指導書は、カリキュラム編成局等による校正が行われるとともに、延期されたパイロット事業でのトライアルを経て、最終的な承認の手続きに移っていくことになります。また、事業に取り組んだワーキンググループメンバーとナショナルトレーナーには、プログラムを完了したことを示す証明書が送られました。

教育省次官からの証明書の授与

報告会参加者との記念撮影

教育省へ提出された 1～6 年生の芸術の教科書

■カンボジアの新しい芸術教科の概要

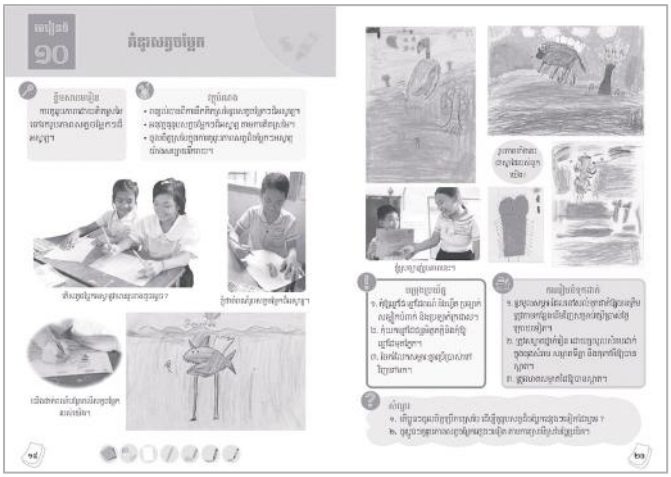
新設教科となる芸術教科は「美術と手工芸」と「音楽と踊り」の 2 つの科目から構成されています。

【教科の目標】

芸術教科は、音楽（舞踊を含む）と美術（手工芸を含む）の学習に主体的に取り組む態度と必要な知識、技能を育むとともに、コミュニケーション力、創造的な思考力、寛容な心（情感豊かな心）、および美的感覚を養い、クメール文化の継承と発展に寄与する。

【美術と手工芸 科目】

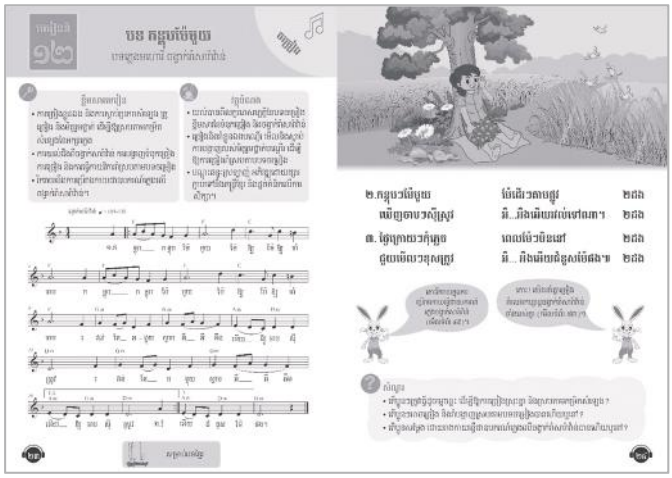
絵画・手工芸・未分化（造形あそび）・鑑賞



美術：想像して絵に表す授業のページ

【音楽と踊り 科目】

歌唱・踊り・器楽・鑑賞



音楽：クメール曲の歌唱の授業のページ

音楽・美術教育支援事業（フォローアップ事業）

■地域や学校に根づいた音楽・美術教育を目指して

これまでにカンポット・スバイリエン州で実施した美術教育支援パイロット事業、そして、プレイベン州のコンポントラバイク郡で実施した音楽教育パイロット支援事業。これらの対象地において、郡の教育局や対象校が、それぞれ自分たちの手で美術・音楽活動を継続していくために必要とされる支援を継続しています。また、指導者がいても、楽器の不足で音楽の授業の実施が難しい学校や、教育機関などへの楽器寄贈も幅広く行っています。

●美術　　（カンポット州、スバイリエン州、プノンペン都）

【美術の授業の継続、自校開催の絵画展などを目的とした画材の寄贈】

コロナウイルス感染拡大の影響で寄贈を見合わせていた画材寄贈を再開しました。カンポットとスバイリエン両州の 32 校における美術授業の継続、ならびに自校開催の絵画展の実施を側面支援するために、画材の寄贈を実施しました。

カンポット州・スバイリエン州での画材寄贈

【第９回ミツバチの一枚画コンクール】

㈱山田養蜂場様が主催する当コンクールに、今回は CCH（P14）の子どもたちが参加しました。Somoeun Sophea さんが「海外作品」の部で優秀賞を受賞し、日本で行われた表彰式では、ビデオメッセージが紹介されました。次回コンクールには、カンポットとスバイリエン両州からも出展する予定です。

表彰式で上映されるビデオメッセージ

Somoeun Sopheaさんの作品
「People and Bee」

●音楽　　（プレイベン州コンポントラバイク郡）

【音楽講習会および郡や対象校による音楽イベントの開催支援】

新型コロナウイルス感染拡大により、休校が続いたことや、集会が制限されたことから、学校主催のイベント開催は見送られました。2022 年度は、コロナ禍での新たな活動の形を対象地域や学校と協議していく予定です。

●楽器寄贈

【地域や学校への楽器寄贈】

リクエストの届いた幼稚園教諭養成校への画材寄贈を行いました。寄贈に際しては、器楽の指導を行える指導者がいること、具体的な指導計画と時間が確保されること、楽器の使用や管理の持続性が考慮されていることなどを確認しています。

鍵盤ハーモニカ寄贈の様子

CCH・アート・プロジェクト

■自己表現活動を通した、青少年の健全な育成を目指して

本事業は、ローラ・ワールドスカラシップ基金の支援により 2015 年より実施しています。子どもたちが想像性や感性、創造力、表現力などの資質能力を発揮できる場を提供することを目的とし、様々な自己表現活動を実施しています。

●アートクラブ

毎週金曜日をアートクラブの日として、美術や音楽に関わる様々な表現活動を行っています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校の休校が続いていましたが、ワクチン接種が進んだことなどから、活動を徐々に再開しました。一時はオンラインで CCH（P14）と JHP を繋ぎ、遠隔で活動を行うなど感染拡大防止に努めました。

アートクラブの様子

オンラインでの活動・ミーティングの様子

●日本の絵画展への出展

様々な国の子どもたちが作った物語を集めて展示する「LIFERARY」というプロジェクトに参加しました。カンボジア・南アフリカ・日本の子どもたちが描いた作品と、子どもたち自身による物語の解説が横浜市栄区にて展示されました。

作品制作の様子

日本での展示会の様子

教育支援（幸せの子どもの家）

支援者の皆さまへ
CCH所長（理事）メチ・ソカ

カンボジアでも、新型コロナウイルスが発生してから、およそ２年が経過しました。感染拡大防止のため、学校も長期にわたり休校していましたが、少しずつ状況はよくなってきています。

CCH では、政府の方針に従い、コロナワクチン接種をすすめ、子どもたちの健康や衛生環境に十分注意を払いながら、学校を再開しています

改めて日頃よりご支援いただいております JHP や支援者の皆様に感謝申し上げます。

項目	男	女	計
小学生	11	8	19
中学生・高校生	5	9	14
ドンボスコ職業訓練校	4	0	4
大学生	0	2	2
貧しいコミュニティでサポートしている子ども	3	6	9

2022 年３月現在

プロジェクトの背景

ポルポト時代に家族を失った経験を持つソカ氏の孤児院設立の構想に対して、2002 年に当会が施設を建設し、創設に携わった。贈呈式は 2002 年 11 月 30 日。主にゴミ山で生活していた孤児等を調査面接し、就学意欲のある 16 人の支援から開始した。CCH は Center for Children's Happiness の略称。

日本語では「幸せの子どもの家」と呼ぶ。カンボジアのNGO として正式に登録されていて 2022 年 3 月現在 33 人が在籍している。CCH 内で運営されている小学校には、CCH 内部の子ども 19 人の他に、外部の子ども 74 人を受け入れている。

手洗い・消毒をし、感染拡大防止に努めています

授業の様子

PCトレーニングの様子

食事の準備を手伝う子どもたち

成人識字教育事業

第３期の識字クラスは 2021 年２月に開講しましたが、新型コロナウイルスの感染が拡大し、全国の教育機関が一斉休校となったため、同年３月から 10 月まで閉講していました。カンボジア政府より、11 月から全教育機関の再開が許可されたのち、感染防止対策を行いながら、受講生の安全を第一に開講しています。第３期識字クラスは 2022 年５月に修了予定です。

第３期　識字クラス概要

■開講場所：コンポンチャム州 バティエ郡 トロップコミューン内にある４村

■開講期間：８カ月間

■開講日及び時間：月曜から土曜まで週６日（午後６時から８時まで）

■総生徒数：80 名（各村 20 名）　男性 11 名 女性 69 名

■現地カウンターパート：識字教員４名、スーパーバイザー1 名、アシスタントスーパーバイザー1 名

識字クラスを受講する生徒

識字クラスの様子

現地カウンターパートとのミーティングの様子

スーパーバイザーへのインタビュー

名前：バン・スバン先生

私は約９年間識字教育に関わってきました。この土地は、内戦時に深刻な被害を受けたため、成人の非識字者の割合が他の地域より高いです。十分な教育を受けていない大人は、次世代の子ども達にいい影響を与えることができないと考えたことが、この識字教育に関わろうと思ったきっかけです。

９年間で約 1,000 人の受講生を見てきました。卒業後、受講生から「新しいビジネスにチャレンジし収入が上がった」、「衛生に関する知識を得たことで、体調を崩すことが減った」という声を聞きます。村内で卒業生に会ったときに「教えてくれてありがとう。」と言われることもよくあり、それがこの事業に携わることができて幸せに思う瞬間です。

日本の支援者の皆様からの支援なしでは、この事業は継続できません。この地域には、まだ教育が必要な成人の方々がいます。継続して実施していきたいと考えています。

「事業の背景」に関しましては、P28　2-4　成人のための識字事業　事業の背景　をご参照ください。

災害救援　復興支援

■東日本大震災から１１年が経ちました

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、東北地方に壊滅的な被害をもたらしました。

JHP は、発生直後に宮城県南三陸町へボランティア隊を送り、現地役場と協働してボランティアセンターを立ち上げました。

希望に満ちた笑顔を取り戻すお手伝いが出来ないかと先頭に立ち上がったのが“JHP 三島”。山岡理事の呼びかけで 2012 年から始めた河津桜の植樹・維持活動は、毎年春と秋にボランティア隊を送り、桜の累計本数は 1,757 本を超えました。快く募金活動にご支援頂いた皆様に感謝・お礼申し上げます。

2022 年 3 月には、JHP 三島を中心とした派遣隊 23 名が今年も現地を訪問し、新たに 81 本の苗木の植樹を行いました。「桜の名所 南三陸町」として、ますます桜の花が復興の象徴となることを祈りながら、今後も地元の方々の強いご要請にお応えして、植樹やメンテナンスを継続してまいります。

■コロナ禍“お米一合運動”を推進

今般の新型コロナウイルス感染拡大により、人々の生活は大きく変化しました。特に、ひとり親世帯や学生アルバイトの方々を中心に、雇用止めによる失業や、営業時間短縮に伴う収入減で、生活に困窮する事態が増えています。

せめて国民の主食である、お米だけでも切らさないようにと、JHP は地域の社会福祉協議会と協働して「お米一合運動」に参加してきました。

この趣旨にご賛同頂いた方々から、多くのご支援を頂き“フードバンクかながわ”を通じて、お米を必要とされている方々へお届けしました。

2021 年 3 月から始めた「お米一合運動」は、2022 年 3 月までの 1 年間で、個人・団体を含め、お米現物 2,574kg、支援金 924,400 円、参加者延べ 260 名と、多くの皆さまからご賛同いただきました。

これを受け、この運動の集約先のフードバンクかながわ様からは、感謝状を頂きました。

お米を受け取った、ひとり親世帯のお母さんからは、「一日一食の生活でしたが、お陰様で給食のない日に、子どもに、おにぎりを持たせることができました。」と感謝の声が寄せられています。

アフリカへ
毛布をおくる運動

アフリカへ毛布をおくる運動は、1984 年にアフリカで発生した大干ばつに見舞われた人々への緊急支援として始まり、38 年間にわたり活動を継続してきました。この間にアフリカへおくられた毛布枚数は 420 万枚を超えます。

アフリカ諸国では、高齢者、孤児、身体障害者、エイズ患者、自立困難者、自然災害被災者、難民等まだ毛布を待つ人々はなくなりません。しかし、コロナ禍のもとで十分な活動ができず、運動を見直した結果、本運動は大量の難民の発生等に対し毛布提供のタイミング等対応が難しく、一応の役目を果たしたと判断し、2022 年の収集活動とその配布をもって終了する方針が決定しました。

2022 年のキャンペーン活動は、5 月 31 日まで行いました。長年にわたるご支援に対し、心から御礼申し上げます。

なお、今までの活動については、アフリカへ毛布をおくる運動推進委員会（JBAC）のホームページに詳しく報告されていますので是非ご参照ください。

啓蒙活動

8/14　天満敦子チャリティーコンサート　Vol.16

浜離宮朝日ホール

第 16 回目となるコンサートは、今年は 8 月 14 日（土）、浜離宮朝日ホールにて開催されました。

当日は新型コロナウイルス感染拡大の防止として、会場スタッフや出演者、来場者のマスク着用や手指消毒等の感染症対策を十分に講じた中での開催となりました。コロナ禍ではありましたが、天満さんのファンを含む沢山の方が多数来場され、久しぶりの生演奏を楽しまれ、満たされたお顔で帰宅されました。

曲目は、前半は主にヨーロッパの名曲中心で「タイスの瞑想曲」、「ロンドンデリーの歌」など、そして、「望郷のバラード」と、比較的、親しみ深い曲をしっとりとした演奏で聴かせていただきました。

休憩の前の天満さんのトークでは、コロナ禍の日々の話を交えながら、例によってユーモアたっぷりにお話しいただきました。

後半は「夏の思い出」、「浜辺の歌」「からたちの花」などの日本の曲を中心としたプログラムで、ご来場の皆さまは、心から堪能された様子でした。

ご報告　入場料・募金　1,703,665 円
支出合計　997,351 円
チャリティー額　706,314 円

次回は２０２２年７月３０日（土）に、同じく浜離宮朝日ホールでの開催を予定しています。

諸活動を認知いただく取り組み

活動名	主な内容・実績
JHPニュース発行	○年２回発行。部数2,000部。 ○カラー印刷、透明封筒の活用を継続。 ▶データーのPDF送信数は56件（'22/３上旬現在）
ホームページ運営	○JHPの諸活動や体制に変更・新設や、イベント等のお知らせ情報が生じる都度、作業を実施。 ▶サイト訪問件数18,270件/年
メールマガジン	○年24回発行。閲覧者1,177人（'22/３上旬現在）
SNSの活用	○メールマガジン未登録の方への情報提供や、会の日常的な話題の紹介、イベント当日の話題提供としてFacebookとTwitterを活用した。 ▶FaceBookフォロアー：956人（'22/３上旬現在） ▶Twitterフォロアー：393人（'22/３上旬現在）
講演・講義等	○コロナの影響により、役職員が年8回実施した。
来訪者受け入れ	○コロナの影響により、プノンペン事務所が5名を対応した。
カレンダー販売	○596部（壁掛け型:313部・卓上型:283部）を販売した。

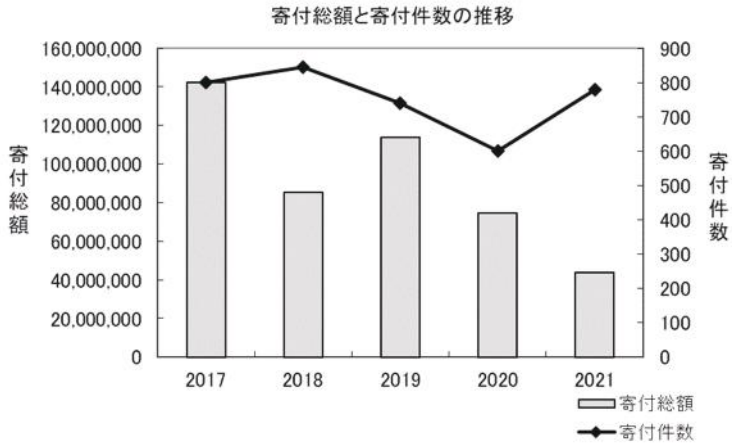
組織運営

会員数　489人(2022年3月現在)

	正会員	賛助会員
一般	317	134
特別	6	10
学生	21	1

前年比12人増　　新規会員5人

寄付金 779 件　43,849,504 円



皆様からの各種ご寄付・寄贈

●お宝エイド　今年度実績：269,505円

皆様のご家庭や会社で眠っている品々が、カンボジア・ネパールの教育支援になる新しい寄付の仕組みです。お宝エイドのご協力により、10%をめどに上乗された金額が、JHP・学校をつくる会への寄付となります。

●スカイウィッシュチャリティプログラム

デルタ航空のマイレージプログラムより、JHPへマイレージをご寄付いただけます。個人の方はもちろん、修学旅行など学校単位でのご寄付の輪も広がっています。

今年度実績	
受領マイル	約69万マイル
利用マイル	17,500マイル
年度末残数	約3,150万マイル

●寄付サイト

5つのサイトより340,724円を受けました。

●クレジットカード

利用数：110件（1,678,250円）

●募金型自販機

27,369円

■カンボジア活動車両へのご支援をいただきました　募金総額：852,840 円

カンボジア全土における事業展開において、唯一の移動手段である活動車両。

当会では、既存車両を長年メンテナンスを繰り返しながら使用しておりましたが、老朽化が進み、走行中に不具合が生じ走行不能になることが多くありました。

これに伴い、2019 年～2020 年にかけ、カンボジアでの安全な活動実施のための「活動車両募金キャンペーン」を行いました。多くの皆さまからのご支援を受け、無事に新車両を購入し、使用を開始しましたことをご報告させていただきます。

購入車両は、４輪駆動の SUV（３列シート７人乗り）で、補装されていない道にも強く、荷物を積むスペースも十分にあるため、カンボジアの子どもたちのための活動事業にて大切に活用させていただきます。皆さまからの温かいご支援をありがとうございました。

各種会議の報告

会議内容	2021年度の主な内容・実績
会員総会	2021年6月24日（木）開催。 出席者112名（委任状含む）。 2020年度事業及び決算報告、 2021年度計画及び予算報告を行った。
理事会	第145回～146回まで年2回実施。
運営協議会	理事と事務局の情報共有、理事会審議事項の協議・検討の場として年8回実施。
定例ミーティング	東京事務所（逐次） プノンペン事務所（週1回）実施した。

助成金・実施実績

今年度は、下記の助成金を申請し、採択されました。

名称	対象事業
連合「愛のカンパ」	成人識字教育事業
歳末助け合い運動による地域福祉助成	広報事業
(公財)東京コミュニティ財団「あおぞら基金」	教育支援事業

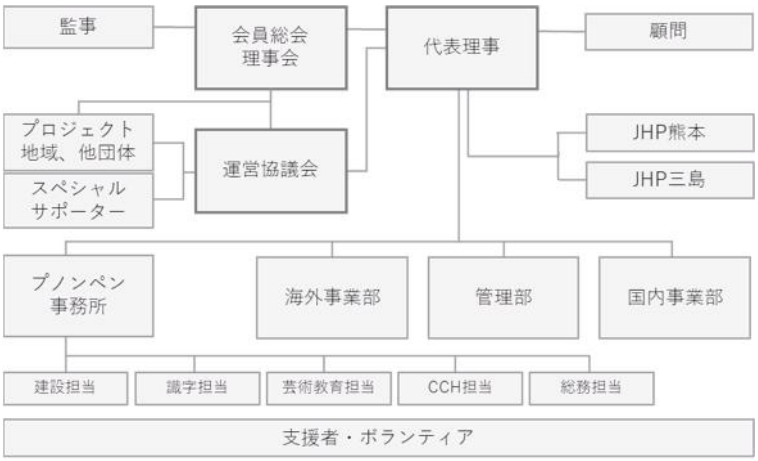
過去開催の楽器清掃ボランティア活動の様子

■ボランティア受け入れ

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東京事務所では、ボランティアの受け入れが難しい状況が続きました。しかしながら、これまでに「カンボジアへ送る鍵盤ハーモニカの楽器清掃ボランティア」にご協力いただいた皆さまの想いを届けようと、「江東区」及び「江東区海外リサイクル支援協会」様のご協力をいただき、本年度も、無事にカンボジアへ鍵盤ハーモニカ20箱、230台を送ることができました。

運営体制（2022.4 現在）

◎JHP 組織図



◎役員

代表理事	小山内美江子
理事	佐伯蘭子、山岡修一、佐谷隆一
	吉岡健治、青野達司、脇田知子
	伊藤多栄子、中込祥高、矢加部咲
監事	櫛田正昭
顧問	立石義明、岩本宗孝

◎東京事務所

区分	2020年4月	2021年4月	2022年4月
常勤役員（定勤役員）	3名	3名	3名
職員	2名	1名	3名
職員（契約）	0名	1名	0名
パートタイマー	3名	3名	2名
ボランティア（定期）	1名	1名	1名

※2020年4月より常勤役員は定勤役員に変更

◎プノンペン事務所

区分	2020年4月	2021年4月	2022年4月
職員（日本人）	3名	3名	4名
職員（ローカル）	7名	7名	5名
専門家（ローカル）	1名	1名	1名

今年度実施できなかった事業

新型コロナウイルスの感染拡大状況と感染拡大防止を考慮し、今年度実施できなかった事業内容は以下になります。

■ボランティア派遣

過去開催の「カンボジア体験ボランティアツアー」の様子

■支援者の方の贈呈された学校への訪問

支援された学校で学び、遊具で遊ぶ子どもたち

■屋内外のイベント出展

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベント出展はオンライン上のみに限定して実施しました。

過去のイベント出展の様子

JHP行動基準

私たちは、地球的視野を持って活動します。
＊開発途上国の人々と同じ目線で学びあいます。
＊より多くの人に新しい経験や自己研鑽の機会を提供します。
＊諸外国と日本を結ぶ架け橋（国際交流）の役割を担います。

私たちは、社会的に弱い立場の人々の自立を支援します。
＊主な支援対象である「子ども」に対して、ハード、ソフトの面から一人ひとりの未来を支えます。
＊国内外の災害救援時に被災者の自立を支えます。

私たちは、「できることからはじめよう」を実践します。
＊人を活かし、一人ひとりの個性や能力が発揮できる組織を目指します。

私たちは、活動に関わる全ての人々がお互いに理解し合える関係を築きます。
＊プロジェクトを成功させるために、支援に携わる人、支援を受ける人と良好な関係を築きます。

私たちは、常に現場のニーズに基づき活動します。
＊現場のニーズが活動の原点であり、その状況を直接調査し、見極めた上で事業を立案し活動します。
＊現場の人々と直接交り、汗を流し、助け合い、学びあいながら活動を進めます。

私たちは、皆さまからのご浄財を責任を持って効果的に活用します。
＊支援者の思いに応え、報告や連絡を丁寧に行い、信頼関係を構築します。

私たちは、活動を進めるにあたり危機管理を徹底します。
＊役職員、ボランティアの安全（危険予知と防止）と衛生管理を徹底し、活動環境を整備し、事故なく活動を継続させます。

私たちは、以上の行動基準について、ヒューマンパワーを結集させて実行すると共に、時代時代に適した内容であるかを定期的に見直し、改定していきます。

制定日：平成25年1月11日

JHP・学校をつくる会　代表理事　小山内美江子

アカウンタビリティ・セルフチェック（ASC）への取り組み

Accountability Self-Check 2012

2016年3月25日、当会は国際協力NGOセンター（JANIC）が普及の中心となるASC2012にチャレンジし、必須項目は33のうち32、強化項目は8のうち6項目をクリアし、2010年2月に実施したときよりも6項目多くクリアすることができました。左のマークはJANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野（組織運営・事業実施・会計・情報公開）についてJHPが適切に自己審査したことを示しています。
今年度もASC2012の全項目クリアに向けて組織力の強化を進めます。

認定NPO法人
JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER
〒108-0014　東京都港区芝5-14-2 鈴木ビル2F
TEL 03-6435-0812　FAX 03-6435-0813
E-Mail tokyo-office@jhp.or.jp　ホームページ：www.jhp.or.jp
Twitter：@JHP_tokyo　Facebook：JHP・学校をつくる会
本書の印刷は株式会社プロネクサス様にご協力頂きました。